

《シンガポール》首相後継にローレンス・ウォン財務相 与党「第4世代チーム」のライバルたちも結束強調

シンガポールのリー・シェンロン首相は4月14日付けの声明で、政権与党「人民行動党(PAP)」が次期指導者としてローレンス・ウォン財務相(49歳)を選任した、と明らかにした。2025年にも実施される次期総選挙を経て、ウォン氏がリー氏から禅譲を受けて第4代首相に就任する道筋が定まった。これまで次期首相レースで競い合ってきたPAP「第4世代チーム」の閣僚や政権要人たちもウォン氏を中心に結束する意思を表明し、PAP政権が今後も一枚岩であることを強調している。

シンガポールでは、1965年の独立以降、「建国の父」とされる故リー・クアンユー初代首相(在任：1959-1990年)、「(建国)第2世代」のゴー・チョクトン第2代首相(在任：1990-2004年)、それに「第3世代」のリーダーで現職のリー・シェンロン第3代首相(在任：2004年-)と3人の首相しか誕生していない。同国の政治にとって第4代首相の「内定」は大きな節目となる。

ヘン副首相の「後継辞退」

政権与党「人民行動党(PAP)」には、次期首相候補の「予備軍」ともいべき若手政治家で構成される「第4世代チーム(4G Team)」がある。

リー首相(PAP書記長)は2019年5月に実施した第4次政権の内閣改造で、同チームの筆頭格であるヘン・スイキヤット(Heng Swee Keat)財務相を唯一の副首相(財務相兼任)に昇格させ、ヘン氏が自らの後継者であることを内外に示した。

ところが、ヘン副首相は21年4月、自らが次期首相に就任するには「高齢」(当時60歳)であるとして、「(首相としての)在任期間が長くなる)より若い指導者に道を譲りたい」との理由で4G Teamのリーダーの立場を自ら降りてしまい、次期首相レースは一旦「振り出し」に戻った形になった。

その後、新型コロナウイルス(COVID-19)対策に全力を注ぐためにも「時間が欲しい」との若手閣僚らの要請もあり、4G Teamのリーダーは実質的に「空席」状態だったという経緯がある。

リーダー選任のプロセス

リー首相は、新型コロナの国内感染状況が鎮静化したこの時期に、次期総選挙も視野に入れて首相の後継者となる4G Teamのリーダーを選任する必要があると判断したとみられる。

4月14日付け声明によると、リー氏はまず4G Teamに属する若手閣僚たちにリーダー選任の方針を告げたのちに、コー・ブンワン(Khaw Boon Wan)PAP前議長(元インフラ担当調整相兼運輸相)に調整役を委任した。

コー氏は委任を受けて、これら閣僚たちと同じく4G Teamメンバーのタン・チュアンジン国会議長とン・チーメン全国労働組合会議(NTUC)事務総長から「誰がリーダーに相応しいか」について個別に聴き取りを行ったという(因みに、コー氏は、リー首相本人や閣内の長老格で「第3世代」閣僚である2人の上級相の見解はあえて聴かず、あくまでも4G Teamメンバー間の互選に委ねた形にした)。

この聴き取りを通じて、4G Teamメンバーの圧倒的多数から新リーダーに推挙されたのが、閣内で2番目に若いローレンス・ウォン財務相(49歳)だったというわけだ。4月14日午前にはコー氏からこの結果について報告を受けたリー氏は、同日夕刻にはPAPの国会議員総会で同意を取り付け、事実上の首相後継者となる4G Teamリーダーへのウォン氏の就任を正式決定した。

新型コロナ対策で果敢な指揮

リー首相は、ヘン副首相の首相後継からの「辞退」を受けて2021年4月23日付けで発令した現第5次政権初の内閣改造で、それまでヘン氏が(経済政策調整相とともに)兼任してきた財務相ポストから同氏を外し、その後任に教育相兼第二財務相(当時)だったウォン氏を任命した。

ウォン氏が首相への登竜門とされる財務相を任された時点で、リー首相が新たな後継者としてウォン氏に白羽の矢を立てたとみることができるといえる。ウォン氏はその後、財務相として新型コロナ禍による打撃緩和のための経済対策や予算編成などに敏腕を振るう一方で、オン・イエクン保健相とともに「COVID-19省庁間対策本部」の共同議長として新型コロナ対策で果敢な指揮を執ったことで、次世代の指導者としての評価を急速に高めることになった。

4G Teamの他の閣僚たちや政権幹部もウォン氏がリー首相の「意中の後継者」だと感じるとともに、実際の指導力や行政手腕も十分に認められた上で同氏を同チームのリーダーに推挙したとみてよいだろう。リー氏が「(リーダー)選任プロセス」を経て発出した声明は、「われわれのシステムの特徴である政治指導の継続性と安定性を確かにする」ための「誓約」だったといえる。

この声明を受けて、次期首相レースで競い合っていたオン保健相、チャン・チュンシン教育相らライバルの政治家たちも次々とSNS(交流サイト)上に投稿し、ウォン氏のリーダーシップへの信頼と同氏を中心に結束していくとの意思を表明し、PAP政権が今後も一枚岩であることを強調した。

メリトクラシーと集団指導体制

シンガポールの閣僚や国会議員には、「建国の父」の長男であるリー首相といえども英ケンブリッジ大学を卒業、米ハーバード大学で行政学修士号(MPA)を取得し、国軍統合参謀長(准将)を経て政界入りしたように、徹底したメリトクラシー(能力主義)を勝ち抜いた高学歴の高級官僚、国軍幹部、弁護士、医師、外資系企業の役員などの経験者がずらりと名を連ねている。

「極く普通の家庭」出身でありながら首相と同じく米ハーバード大学でMPAを取得し、財務省官僚やリー首相の首席秘書官として実力を発揮して、次期首相候補にまで登り詰めたウォン氏はまさにメリトクラシーを体現する人物だ。

リー首相は声明の中で、「(父の故リー・クアンユー氏が英連邦自治州の初代首相に就任した)1959年から、我々の政治的指導部のモデルは決して一人の人物が担っていたのではなく、常にチームだった。指導部の各人が相応の貢献をし、相互に補完しあってシンガポールという国家に自らの最善を尽くしてきたのだ」と指摘している。

その通りで、一般的には首相が強力な権力を握る「管理国家」というイメージがあるが、実際には、ゴー第2代首相とリー現首相の政権下でも、首相の同世代の有能な「同志」たちが異なった分野の閣僚ポストを

10年以上にわたって「持ち回り」しながら首相を支えていくという一種の集団指導体制だった側面があることも確かだ。

ウォン氏は、リー氏が事実上の後継者を発表した直後に、SNSで「同世代のチームメンバーと共に、国民に心を込めて尽くし続けたい」との決意を表明した。4G Teamで年齢や閣僚経験では後輩格のウォン氏がリーダーに就くことで、同氏の「チーム」は以前のライバル各人の能力を結集した集団指導体制への志向をさらに強めることになるだろう。

【第4世代チーム(4G Team) リーダー】

■財務相 Minister for Finance

ローレンス・ウォン〈黄循財〉Lawrence Wong



(上述したように)リー・シェンロン首相の4月14日付け声明で、政権与党「人民行動党(PAP)」の「第4世代チーム(4G Team)」リーダーへの就任が発表された。2025年にも実施される次期総選挙を経て、リー氏から禪譲を受けて第4代首相に就任することが「内定」した。

*リー首相が2021年4月23日付けで実施した内閣改造で、それまでヘン・スイキャット副首相兼経済政策調整相が兼任してきた財務相に教育相兼第二財務相からポスト替えになった。元財務官僚であるのに加えて、2016年からヘン氏を補佐して第二財務相を務めてきたこともあり、財務行政に最も精通した若手閣僚との評価を得ている。3回生国会議員(マーシリン・ユーターイー集団選挙区〔GRC〕)。

*現内閣では、デズモンド・リー(Desmond Lee)国家開発相(45歳)に次いで年少(49歳)。2012年11月に文化・地域・青年相代行として初入閣を果たした時から、「経済発展だけでなく国民に真の幸福を」をモットーに様々な企画を打ち出し「幸福の宣教者(Ministry of Happiness)」の異名をとってきた。財務相(現職)としても、歳入増加策に尽力するだけでなく、経済的な格差の是正にも焦点を当てた「公平でより持続可能かつインクルーシブな」政策を策定し実施すると声明している。

*政界入り前は、通産省、財務省、保健省で課長、部長、局長を歴任し、(リー)首相首席秘書官を経てエネルギー市場庁(EMA)長官に就任した経歴を持つ超エリート官僚。

*インスタグラムでは、「本の虫、ギター演奏者、愛犬家」と自己紹介している。音楽はロック、ブルース、ソウルなどのジャズをこよなく愛し、特にニーナ・シモンとエラ・フィッツジェラルドは熱的なファン。シンガポール政府の留学奨学金を得た際には、「好きなジャズシンガーが多くいる米国を迷いなく留学先に選んだ」と語っている。

*マリンパレード地区にある公団住宅(HDB)に居住する「極く普通の家庭」(本人の弁)で生まれ育った。中国海南島生まれの父親(2021年8月に86歳で死去)はマレーシアの貿易コングロマリット「サイム・ダービー(Sime Darby)」のセールスマンで、母親(82歳)は小学校の教師を務めていた。2歳年上の兄は現在、国防研究機関(DSO)の航空宇宙エンジニアとして勤務している。

▼データ：【年齢】49歳(1972年12月18日生まれ)【生地】シンガポール【人種】華人(海南人)【宗教】キリスト教【党務】PAP中央執行委員兼本部執行委員(政策フォーラム〔PPF〕顧問)【学歴】(米)ウィスコンシン大学卒(経済学)、(米)ミシガン大学経済学修士、(米)ハーバード大学ケネディスクール(公共政策大学院)行政修士(MPA)【経歴】財務官僚：1997年通産省調査・企画課長、99年財務省財政政策課長、2001年同省予算局経済企画部長、04年保健省医療財政局長を経て、05年(リー・シェンロン)首相首席秘書官。08年エネルギー市場庁(EMA)長官。11年5月総選挙で国会議員に初当選、直後に国務相(国防/教育)に就任。12年8月上級国務相(情報通信・芸術/教育)、同11月文化・地域社会・青年相代行兼上級国務相(通信・情報)。14年5月第3次リー政権改造内閣で文化・地域・青年相兼第二通信・情報相。15年10月国家開発相。16年8月国家開発相兼第二財務相。20年7月総選挙で国会議員に当選(3期目：一現職)、同7月27

日教育相兼第二財務相。21年5月15日第5次リー政権改造内閣で財務相(一現職)【趣味】ゴルフ、テニス、歌唱(ジャズ)【家族】28歳の時に結婚したが3年後に「性格の不一致」のため離婚。その後、再婚している。

【第4世代チーム(4G Team)の主要な政治家】

■教育相 Minister for Education

チャン・チュンシン〈陳振聲〉Chan Chun Sing



2011年3月に国会議員に初当選した直後に初入閣(社会開発・青年スポーツ相代行)した時には、リー首相の後継者候補の筆頭と目されたことがあった。40歳でシンガポール陸軍司令官(少将)に就任した国軍将校中の超エリート。41歳で退役して政界入り。国会議員(3期目)。

▼1969年10月9日生まれ(52歳)。PAP中執委第2副書記長。(英)ケンブリッジ大学卒(経済学：首席)、米陸軍指揮幕僚学校で修士号取得(軍事学)、(米)マサチューセッツ工科大学高級管理者課程(MIT SF)修了。閣僚としては、社会・家庭開発相、首相府相、貿易産業相などを歴任後に2021年5月現職。

■保健相 Minister for Health

オン・イェクン〈王乙康〉Ong Ye Kung



ローレンス・ウォン財務相(4G Teamリーダー)とともに「COVID-19省庁間対策本部」の共同議長を務めた。最近まで、リー首相の後継候補の一人とされてきた。国会議員(2期目)。

▼1969年11月15日生まれ(52歳)。PAP中執委員(副財務委員長)。(英)ロンドン大学(LSE)卒(経済学)、(スイス)国際経営開発研究所(IMD)経営学修士(MBA)。貿易産業省貿易部長、(リー・シェンロン)副首相兼財務相首席秘書官、シンガポール労働力開発庁(WDA)専務理事などを歴任。2015年9月国会議員に初当選。教育相兼第二国防相、運輸相などを経て、21年5月15日現職。

■国会議長 Speaker of Parliament

タン・チュアンジン〈陳川仁〉Tan Chuan Jin



2017年9月にリー首相に要請されて内閣を離れ、「名誉職」的な第10代国会議長に就任するまでは、チャン教育相と首相後継レースを競っていた。陸軍訓練教義司令官(准将)を最後に退役し政界入り。国会議員(3期目)。

▼1969年1月10日生まれ(53歳)。キリスト教徒。PAP中執委員。(英)ロンドン大学(LSE)卒(経済学)、同大学(キングス・カレッジ)軍事学修士、(英)サンドハースト王立陸軍士官学校(RMAS)修了。シンガポール陸軍第3師団長、陸軍訓練教義司令部(TRADOC)司令官などを歴任。国軍退役後の2011年5月国会議員に初当選。人材開発相、社会・家庭開発相を経て、17年9月11日現職。

■全国労働組合会議(NTUC)事務総長

ン・チーメン〈黄志明〉Ng Chee Meng



官製の労働組合総連合であるNTUCのトップ(閣僚待遇のポスト)。国会議員(2期目)。

▼1968年8月8日生まれ(53歳)。PAP中執委員。米空軍士官学校卒(理学士)、(米)タフツ大学フレッチャースクール修士(国際関係論)。空軍戦闘機パイロット。空軍司令官を経て国軍(SAF)司令官(退役空軍中將)。閣僚としては、教育相(学校担当)を経て2018年5月から首相府相兼NTUC事務総長(20年7月に首相相は解任)。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)